

国際漁業学会（JIFRS）短信

<https://www.jifrs.info/>

事務局 E-mail: jifrs.kaiyodai@gmail.com

郵便振替番号：00100-6-26448 国際漁業学会

振込：ゆうちょ銀行 店番 019 当座 店名〇一九店 口座番号 0026448

2025 年度第 1 号

2025 年 7 月 9 日刊

目次

1. 理事挨拶	有路昌彦
2. 2025 年度 JIFRS 大会（東京大会）のご案内	松井隆宏・事務局
3. 2025 年度 JIFRS 大会シンポジウムのテーマ	神山龍太郎
4. 2026 年度 JIFRS 大会シンポジウム企画募集	松井隆宏
5. 2025 年度研究会の計画と募集	宮田勉
6. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼	川辺みどり
7. 事務局だより	事務局

1. 理事挨拶

有路昌彦（近畿大学）

コロナ禍後の世界経済は大きく変化し、世界を襲うインフレの中で我が国は原料高の中所得が増えない状況になっている。しかし海外の多くの国々がいち早く成長に転じておりより一層消費が大制になってきている。

一方で、我が国魚類養殖は昨年から高水温によって特に大きな危機に直面している。2024 年夏季に発生した異常海水温は、我が国の養殖業（特にブリ養殖）に大量斃死・成長不良という形で大きなダメージを与えた。ブリの主産地である錦江湾では水深 50m まで 30℃を超えた状態が 2 か月以上続き、宿毛においても表面海水温が 32℃を超えるなど、ブリの生育の限界であるとされる 29℃を超える状態になったことは未曾有の状況であった。この結果、歩留りは大きく悪化し原価の大幅な増加につながった。また、餌代も 3 年前の 170 円/kg から現在 300 円～330 円/kg になり、これも製造原価の大幅な増大の原因になっている。市場を見ると、大幅な供給不足が発生しその状況は現在まで続き、浜値は 850 円から 1400 円まで上昇している。生産者としてはこの価格帯で原価高騰分の補填ができていない側面もあるものの、国内マーケットとしては確実に縮小しつつあり、多くが天然ブリに代替される結果になっている。この背景には国民の実質所得の減少もあり、国内だけをターゲットにしていくことは厳しい状況になっていることを示している。

一方、先に述べたように海外の消費はより旺盛であり、輸出は伸び続けている。北米だけではなく、ヨーロッパ、アジア、中東と市場が拡大している背景には、海外と日本の主として

円安と経済格差があり、海外の物価や成長という視点からは、我が国の水産物は比較的求めやすいものという評価になってきていることがあると考えられる。しかしより深く見ると、ブリ以外（活魚で韓国に送られるものを除き）例えばマダイはあまり輸出されておらず、どのようにすれば市場を獲得できるのか、その明確な解はまだ明らかになっていない。

こういった状況の中で、我が国の給餌養殖が持続可能な成長を実現するためには、高水温に対応する短期的方策と中長期の技術開発、海外を対象を含めた多様な販売先の確保が重要になってきていると考えられる。

この状況は水産（特に養殖）に係る研究者においては、大きな課題であるという認識は共通のものとなっていると考えられるが、先に述べたように、技術開発だけではなく、この課題解決には、特に国際的な視野に立った経済的・法制度的な分析が求められる。短期的な方策や海外への具体的な販売方法の特定や、それを明らかにする市場分析など、グローバルな対象に対する特に経済分野の研究と法制度の研究が、従来よりもより多くより速度を速めて、世の中に供給されることが必要な局面にあるのではないかと。

国際漁業学会はこの問題の解を求める点について、今最もアプローチできる学会であると考えられる。多くの研究者の積極的な参加と成果の公表を期待したい。それらは間違いなく、実業界に対して、あるいは政策立案者にとって強力な支援になると考える。

2. 2025 年度 JIFRS 大会（東京大会）のご案内

松井隆宏（東京海洋大学）・事務局

2025 年度大会は下記の通り東京海洋大学にて行うことになりました。実施方式は対面です。多くの会員、関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

会 場：東京海洋大学 品川キャンパス

〒108-0477 東京都港区港南 4-5-7

日 時：2025 年（令和 7 年）8 月 30 日（土）～31 日（日）

日 程：8 月 30 日 午前：各種委員会・理事会

午後：シンポジウム

（わが国漁業経営の現状と経営調査・研究の必要性）

夜：懇親会

8 月 31 日 午前：個別報告（申し込み数が多ければ午後も）

午後：総会等

参加費：一般会員 2,000 円

一般非会員 3,000 円

ただし、漁業関係者や学生は無料

懇親会費：一般 5,000 円、学生 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7 月 25 日までに下記リンクからお申し込みください。

懇親会参加申し込みフォーム：<https://forms.gle/TDVjPaTw5C8os2rj8>

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は1報告あたり25分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望する会員は、7月25日（金）までに報告者の氏名、所属、および報告タイトル等を、下記のグーグルフォームでお送りください。

個別報告申し込みフォーム：<https://forms.gle/KyJ81ZdwPb2U3qzp8>

なお、発表者は会員に限られますので、未入会の方は学会HPを確認し、入会手続きを行ってください。連名者は非会員でも問題ありません。

また、8月1日までに報告要旨（40字×25行以内）を、8月22日までにパワーポイント等による報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれ下記リンクからアップロードしてください。

個別報告要旨提出フォーム：<https://forms.gle/icgN9pA2sPFvpjdS9>

パワーポイント提出フォーム：<https://forms.gle/CfaXu1w5pB7fAkt2A>

個別報告の申し込みについてご不明な点がございましたら、メールで事務局までご連絡ください。

・報告論文について

個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする10枚までの（図表を含む）コンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで（ただし、審査は原則として2回までとする）、掲載料は1万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

2025年度の報告論文投稿受付期間は大会終了後から2025年9月19日までです。投稿規定に準拠した論文原稿と投稿票を、編集委員長（若松宏樹：hwakamatsu@affrc.go.jp）、編集幹事（神山龍太郎：kamiyama_ryutaro30@fra.go.jp）、大会特集担当（浪川珠乃：tnam001@kaiyodai.ac.jp）の3名を宛先としてご提出ください。個別報告時と内容が大きく異なる原稿や、分量が規定を上回る原稿は受付できません。

審査のスケジュールは以下の予定となっております。

- ・報告論文〆切 9月19日
- ・第1回審査結果の返却予定 11月下旬
- ・第2回審査結果の返却予定
 - ・第1回の判定が「B：修正が必要（編集委員による確認）」の場合、2月上旬
 - ・第1回の判定が「C：大幅な修正が必要（再査読）」の場合、2月下旬

※上記のスケジュールは査読や修正が期限通りに実施された場合の見込みであり、この期限通りに審査が進むことを保証するものではありません。

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ（<https://jifrs.info/>）からダウンロードをお願いします。（8月中旬に掲載します）

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

3. 2025 年度 JIFRS 大会シンポジウムのテーマ

神山龍太郎（水産研究・教育機構）

《わが国漁業経営の現状と経営調査・研究の必要性》

趣旨：水産政策の目標として漁業者の所得向上が掲げられているが、漁業経営統計調査によれば漁業経営の所得水準は低い状態が続いている。地域や漁業種類ごとの実態に応じた経営支援施策が求められるが、漁業経営統計調査は漁船漁業では全国平均値しか分からない等の限界があるため、経営調査や経営分析が必要となる。海外では、2022 年に米国 NOAA が漁業経営における利益計算の方法を整理した報告書「Fisheries Best Practices for Measuring Returns to Fishing Business」を公表する等、当該分野の進展がみられる。わが国においても、資源管理と両立しながら生産性向上や経営多角化を目指すという新しい漁業経営の在り方を描くに足る研究や施策のアプローチを確立していく必要がある。以上の背景から、本シンポジウムでは、漁業経営の調査・分析および経営支援施策の最先端の取り組みを紹介し、今後の漁業経営研究や経営支援施策の在り方を議論することを目的とする。

13:00 開会あいさつ

婁小波 会長

報告

司 会：竹ノ内徳人（愛媛大学）

解 題：わが国漁業経営の現状と経営調査・研究の必要性

神山龍太郎（水産研究・教育機構）

報告 1：沿岸水産資源変動に直面する愛知県小型底曳き網漁業の経営の持続可能性（仮）

福釜知佳（東京海洋大学）

報告 2：宮崎県の漁船漁業の将来を考える

ービックデータ等を活用した漁業経営実態調査の取組ー

中西聖代（宮崎県）

報告 3：活動基準原価計算による水産経営の収益性とコスト構造の可視化（仮）

森光高大（明治大学）

報告 4：長崎県における経営支援施策の事例

松井隆宏（東京海洋大学）

総合討論

司 会：竹ノ内徳人（愛媛大学）

コメンテーター：宮田勉（水産研究・教育機構）、原口健太郎（西南学院大学）

質疑応答

17:45 閉会

4. 2026年度JIFRS大会シンポジウム企画募集

松井隆宏（大会運営委員長・東京海洋大学）

2026年度JIFRS大会のシンポジウム企画を募集します。応募される方は下記の要領にて仮題と概要をお知らせくださいますようお願い致します。皆様からの奮ってのご応募をお待ちしております。

応募内容：仮題および概要（800～1,200字程度）

応募締切：2025年8月8日

連絡先：国際漁業学会事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）

応募内容をもとに立案した企画は、次号の短信に掲載する予定です。

5. 研究会の計画と募集

宮田勉（研究企画委員長・水研機構）

2025年度の研究会については現在検討中ですので、詳細は追ってお知らせいたします。話題提供しても良いという方がおられましたら事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）に連絡頂ければと存じます。

6. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

川辺みどり（学会賞選考委員長・東京海洋大学）

2025年度の学会賞候補者の選考を開始します。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。推薦の際、歴代受賞者リストも参照ください。

国際漁業学会 学会賞の選考要領は下記の通りです。

授賞の対象は、以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。書籍については、2023年7月1日以降の業績が対象です。

<奨励賞>原則として40歳代以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第22以降巻の掲載論文が対象となります。

募集期間：2025年8月8日締め切り

推薦方法：推薦する対象者、賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（婁小波 lou(at)kaiyodai.ac.jp）宛てに、E メールにて送付してください。

選考方法：会員からの推薦をもとに、会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2025 年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

◆学会賞（国内賞）の歴代受賞者リスト

（2025 年 7 月現在）

氏 名	受賞時所属・職名	受賞年月日	備 考
松田 恵明	鹿児島大学 名誉教授	2011 年 8 月 4 日	功績賞
真道 重明	-	2012 年 8 月 5 日	功績賞
八木 信行	東京大学 准教授	2012 年 8 月 5 日	学会賞
中島 亨	東京大学 特任助教	2012 年 8 月 5 日	奨励賞
松井 隆宏 原田 幸子	三重大学 准教授 株式会社地域資源経済研究所 研究員	2012 年 8 月 5 日	奨励賞
榎 彰徳	NPO 法人 消費者支援機構関西 理事長	2013 年 8 月 4 日	功績賞
有路 昌彦	近畿大学 准教授	2013 年 8 月 4 日	学会賞
猪又 秀夫	水産庁	2015 年 8 月 9 日	学会賞
小野 征一郎	東京水産大学 名誉教授	2016 年 8 月 7 日	功績賞
黒倉 寿	東京大学 名誉教授	2017 年 8 月 6 日	功績賞
阪井 裕太郎	Arizona State University Post-Doctoral Research Associate	2018 年 8 月 7 日	奨励賞

森下 丈二	東京海洋大学 教授	2020 年 8 月 29 日	学会賞
多 田 稔	近畿大学 教授	2022 年 8 月 28 日	功績賞
大石 太郎	東京海洋大学 准教授	2022 年 8 月 28 日	奨励賞
山田 二久次	三重大学 准教授	2022 年 8 月 28 日	奨励賞
神山 龍太郎	水産研究・教育機構 水産資源研究所 主任研究員	2022 年 8 月 28 日	奨励賞

7. 事務局だより

事務局

1) 今後の大会シンポジウムテーマ等について

今後の大会シンポジウムテーマや個別報告の「特別セッション」などにつきまして、企画提案を募っておりますので、ご提案や企画などがございましたら、事務局までご一報いただけますと幸いです。

2) 学会賞の推薦について

昨年度は推薦がなかったとのことです。学会誌を眺めていただいたり、周りを見渡していただいたりして、ご推薦をいただけますよう、お願いいたします。

3) 今年も暑い夏になりそうです

みなさま、ご自愛のほどを。